

日本文化人類学会 第41回研究大会 プログラム

於 名古屋大学

2006年6月2日(土)

8:30	参加受付開始
9:00-12:15	研究発表
13:00-17:55	研究発表
18:00	懇親会(於 野依記念学術交流館)受付開始
18:30-20:30	懇親会、渋澤賞授賞式

2006年6月3日(日)

8:30	参加受付開始
9:00-12:40	研究発表
13:50-15:50	総会(於 IB 電子情報館大講義室) 学会奨励賞 授賞式
16:00-18:00	シンポジウム(於 IB 電子情報館大講義室)

大会参加者の皆様へ

1 受付

受付は、一日目・二日目ともに、IB 電子情報館前にて、8:30 から行います。受付で登録のうえ、発表抄録集と名札をお受け取りください。名札は、最後にお帰りになるとき、受付に設置の返却箱にご返却ください。

2 発表会場

発表会場は名古屋大学（東山キャンパス）工学部2号館とIB 電子情報館です。別頁の研究大会会場の案内図を御参照のうえ、お間違いのないようお願いします。

3 昼食

弁当を御予約の方は、昼食時受付にてお渡しします。弁当の価格は1000円です。つり銭のないようお願いします。

4 懇親会

一日目の研究発表の終了後、名古屋大学内、野依記念学術交流館にて、懇親会を開催いたします。大会会場より徒歩にて移動します。途中、係の者が道を案内いたします。別頁の案内図も御参照ください。

その他、当日に御不明な点は、実行委員会の者・会場係にお尋ねください。

個人発表をなさる方へ

1 発表者受付

個人発表をなさる方は、発表時間の 1 時間前までに、IB 電子情報館前の発表者受付で、発表登録の確認を行ってください。指定された発表会場には、発表開始予定時刻の 15 分前までにお入りになり、指定された席で待機してください。なお、事前の登録時とは異なる発表機材を御使用になる場合、発表登録の確認時に申告して下さるようお願い申し上げます（ただし、事前の登録時と異なる発表機材を御使用になる場合、御希望にそえないことがあります）。

2 発表資料

発表の際に資料を配付される方は、予め各自で必要部数を用意してください（コピーの要望は、対応できかねます）。残部は、発表終了後に、各自回収してください。

3 発表時間

個人発表の制限時間は、質疑応答を含んで 20 分です（その後の 5 分は、移動や機材設置の為の時間です）。座長の指示に従い、時間内に発表を終えるよう御協力ください。時間経過の合図は次の通りです。

15 分経過	ベル 1 回
18 分経過	ベル 2 回
20 分経過	ベル 3 回（発表および質疑終了）

4 発表機材

パワーポイントなど PC を使用の場合：USB フラッシュメモリーをご持参下さい。
Windows 機（XP）：Microsoft Office 2003 は準備委員会にて準備いたします。これで対応できない方は、各自必要な機器をご用意願います。プロジェクター、ポインター、接続コード（D sub15 ピン形式）は準備委員会で用意いたします。

午前・午後の部の発表開始 1 時間前から接続テストの時間を設けておりますので、事前にリハーサルをご希望の方はご利用下さい。

スライドを使用の場合：それぞれの会場係が用意するスライドホルダーに、御自身で挿入し、30 分前までに会場係の者にお預けください。発表終了後、御自身でスライドをホルダーから回収してください。

分科会発表をなさる方へ

1 発表者受付

分科会代表者は、発表時間の 1 時間前までに、IB 電子情報館前の発表者受付で、発表登録の確認を行ってください。分科会発表者の方については、代表者の方がとりまとめて行ってください。なお、事前の登録時とは異なる発表機材を御使用になる場合、発表登録の確認時に申告してくださるようお願い申し上げます（ただし、事前の登録時と異なる発表機材を御使用になる場合、御希望にそえないことがあります）。

2 発表資料

発表の際に資料を配付される方は、予め各自で必要部数を用意してください（コピーの要望は、対応できかねます）。残部は、発表終了後に、各自回収してください。

3 発表時間

各分科会の発表時間は、プログラムに記載されている通りです。時間内での発表、コメント、質疑応答などの時間配分や司会については、代表者にお任せいたします。代表者は、割り当てられた時間内に分科会を終了するようお願いいたします。時間を超過した場合、大会準備委員会の権限でその分科会を終了させていただきます。

4 発表機材

パワーポイントなど PC を使用の場合：USB フラッシュメモリーをご持参下さい。
Windows 機（XP）：Microsoft Office 2003 は準備委員会にて準備いたします。これで対応できない方は、各自必要な機器をご用意願います。プロジェクター、ポインター、接続コード（D sub15 ピン形式）は準備委員会で用意いたします。

午前・午後の部の発表開始 1 時間前から接続テストの時間を設けておりますので、事前にリハーサルをご希望の方はご利用下さい。

第 41 回日本文化人類学会学術大会シンポジウム

21 世紀地球人類の危機と人類史

司会

佐藤弘明(浜松医科大学)・今村薫(名古屋学院大学)

パネラー

- 赤澤威(高知工科大学) 「人類史運命の分かれ目：旧人ネアンデル
タールと新人ホモ・サピエンスの交替劇」
- 嶋田義仁(名古屋大学) 「乾燥地からみた人類文明」
- 市川光雄(京都大学) 「人類の生活環境としての熱帯雨林
：歴史生態学的視点から」
- 煎本孝(北海道大学) 「人類の進化と北方適応」
- 竹沢泰子(京都大学) 「人種問題とは何か」

21 世紀を迎えた人類は未曾有の繁栄を迎えているとともに、深刻な危機にも直面している。人口増大と経済発展にともなう、資源の枯渇、都市問題、地球環境の破壊と汚染、そしてそれにおそらく付随していると見られる地域紛争の広がり、などである。そんな中、文化人類学はなにをなすのか、このように自問した結果、あらためて人類の歴史を振り返ってみよう、ここに人類が立ち至ったのは何故なのか、われわれは人類の運命を変えることができるのか、できないのか、このたかだか数万年くらいの中に地球上に増殖に増殖を重ねるに至った人類とは何なのか、文化人類学会会員が隣接諸分野の研究者や市民とともに考えてみるきっかけとなるようなシンポジウムを企画しました。